トスル場合亦同ジ

第六條ノ三　工業組合前條ノ規程ニ基キ製造又ハ加工ノ數量、販賣價格、加工料金其ノ他命令ノ定ムル事項ニ付決定ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク之ヲ行政官廳ニ屆出ヅベシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ決定ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得

第七條　營業上ノ弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ工業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ行政官廳ハ工業組合ニ對シ必要ナル施設ヲ命ズルコトヲ得

第八條　營業上ノ弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ工業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲特ニ必要ト認ムルトキハ行政官廳ハ工業組合ノ組合員又ハ其ノ組合ノ組合員ニ非ズシテ其ノ組合ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第八條ノ二　前條ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ於テ行政官廳取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ工場、倉庫、店舖其ノ他ノ場所ニ臨檢シ物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏ハ工業組合ノ檢査員ヲシテ必要ナル補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ當該官吏前條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者アリト認ムルトキハ被疑者若ハ參考人ヲ尋問シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スベキ物件ヲ搜索シ若ハ之ガ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、尋問、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第八條ノ三　行政官廳第八條ノ規定ニ依ル命令ヲ遵守セシムル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ命令ニ從フベキ者ニ對シ

……資格

イ、修業年限四箇年以上ノ高等女學校卒業者

ロ、專門學校入學者檢定規程ニヨリ一般專門學校入學ニ關シ修業年限四年ノ高等女學校卒業以上ノ學力アリト指定セラレタルモノ但シ前記各號ノ學校在學中ノモノト雖モ其ノ年三月末日マデニ卒業見込ノ者ハ該學校長ノ卒業見込證明書添付ノ上入學ヲ出願スルコトヲ得

ハ、專門學校入學檢定規程ニヨル試驗檢定合格者

……手續

(一)入學願書(二)戸籍謄本若クハ抄本(抄本ナレバ現存者全部記入セルモノナルヲ要ス)(三)卒業證明書　但シ出願當時卒業未了ノ者ハ卒業見込證明書ヲ、入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ入學檢定合格證寫ヲ添付スベシ。(四)成績證明書又ハ推薦狀。成績證明書＝卒業年度ノ成績ヲ記入セルモノ入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ此ノ限リニアラズ。推薦狀＝(本校所定ノ用紙ヲ交付ス)出身女學校長ノ推薦ニ係ル志願者ハ成績證明書ニ代ヘ推薦狀ヲ提出スベシ。(五)身體檢査書(本校所定ノ用紙ヲ交附ス)出身女學校醫ノ作成ニ係ルモノ但シ入學資格(ハ)ニ……

南滿洲鐵道株式會社立……

……募集人員……

社債一部償還公告

當社舊日本電氣工業株式會社……

資格

イ、修業年限四箇年以上ノ高等女學校卒業者
ロ、專門學校入學者檢定規程ニヨリ一般專門學校入學ニ關シ修業年限四年ノ高等女學校卒業以上ノ學力アリト指定セラレタルモノ但シ前記各號ノ學校在學中ノモノト雖モ其ノ年三月末日マデニ卒業見込ノ者ハ該學校長ノ卒業見込證明書添付ノ上入學ヲ出願スルコトヲ得
ハ、專門學校入學檢定規程ニヨル試驗檢定合格者

手續

(一)入學願書(二)戶籍謄本若クハ抄本(抄本ナレバ現存者全部記入セルモノナルヲ要ス)(三)卒業證明書 但シ出願當時卒業未了ノ者ハ卒業見込證明書ヲ、入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ入學檢定合格證寫ヲ添付スベシ。(四)成績證明書又ハ推薦狀。成績證明書＝卒業年度ノ成績ヲ記入セルモノ入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ此ノ限リニアラズ。推薦狀＝(本校所定ノ用紙ヲ交付ス)出身女學校長ノ推薦ニ係ル志願者ハ成績證明書ニ代ヘ推薦狀ヲ提出スベシ。(五)身體檢査書(本校所定ノ用紙ヲ交附ス)出身女學校校醫ノ作成ニ係ルモノ但シ入學資格(ハ)ニ

南滿洲鐵道株式會社立

募集人員

社債一部償還公告

當社舊日本電氣工業株式會社
上擔保附い號社債第九次償還
致候處下記番號當籤致候ニ付

其ノ製造又ハ加工ノ設備ノ使用ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政官廳取締上必要アリト認ムルトキハ製造又ハ加工ノ設備ニ付封印ヲ施シ、其ノ要部ヲ取外シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 重要輸出品ニ關スル工業組合又ハ其ノ組合員ハ其ノ營業ニ關スル重要物產同業組合法ニ依ル同業組合ニ加入セス又ハ之ヨリ脫退スルコトヲ得

前項ノ重要輸出品ハ主務大臣之ヲ指定ス

第十條 本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十一條 本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ其ノ事實ノ生シタル後二週間內ニ之ヲ登記スヘシ

登記スヘキ事項ニシテ行政官廳ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第十二條 工業組合ヲ設立セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ組合員タル資格ヲ有スル者ノ工業ノ種類二以上アルトキハ各其ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキト雖特別ノ事由アル場合ニ於テハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ招集スルコトヲ得

第十三條 創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス但シ設立同意者ノ工業ノ種類二以上アルトキハ各其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第十四條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決

格

イ、修業年限四箇年以上ノ高等女學校卒業者
ロ、專門學校入學者檢定規程ニヨリ一般專門學校入學ニ關シ修業年限四年ノ高等女學校卒業以上ノ學力アリト指定セラレタルモノ但シ前記各號ノ學校在學中ノモノト雖モ其ノ年三月末日マデニ卒業見込ノ者ハ該學校長ノ卒業見込證明書添付ノ上入學ヲ出願スルコトヲ得
ハ、專門學校入學檢定規程ニヨル試驗檢定合格者

續

(一)入學願書(二)戸籍謄本若クハ抄本(抄本ナレバ現存者全部記入セルモノナルヲ要ス)(三)卒業證明書　但シ出願當時卒業未了ノ者ハ卒業見込證明書ヲ、入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ入學檢定合格證寫ヲ添付スベシ。(四)成績證明書又ハ推薦狀。成績證明書＝卒業年度ノ成績ヲ記入セルモノ入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ此ノ限リニアラズ。推薦狀＝(本校所定ノ用紙ヲ交付ス)出身女學校長ノ推薦ニ係ル志願者ハ成績證明書ニ代ヘ推薦狀ヲ提出スベシ。(五)身體檢査書(本校所定ノ用紙ヲ交附ス)出身女學校校醫ノ作成ニ係ルモノ但シ入學資格(ハ)ニ

上

募集人員

南滿洲鐵道株式會社立

社債一部償還公告

當社舊日本電氣工業株式會社
上擔保附い號社債第九次償還
致候處下記番號當籤致候ニ付

權ヲ行フコトヲ得

前項ノ代理人ハ設立同意者タルコトヲ要ス但シ法人タル設立同意者ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スベシ

第十五條　工業組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ但シ第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ第六號乃至第九號及第十五號ニ掲ゲタル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

一　目的
二　名稱
三　地區
四　事務所ノ所在地
五　組合員タル資格ニ關スル規定
六　組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
七　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
八　剰餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定
九　準備金ノ額及其ノ積立ノ方法
十　組合員ノ權利義務ニ關スル規定
十一　事業及其ノ執行ニ關スル規定
十二　役員ニ關スル規定
十三　會議ニ關スル規定
十四　會計ニ關スル規定
十五　存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第十五條ノ二　工業組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第二十八條ノ三第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

第十六條　工業組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間以內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ但シ第二

資格

イ、修業年限四箇年以上ノ高等女學校卒業者

ロ、專門學校入學者檢定規程ニヨリ一般專門學校入學ニ關シ修業年限四年ノ高等女學校卒業以上ノ學力アリト指定セラレタルモノ但シ前記各號ノ學校在學中ノモノト雖モ其ノ年三月末日マデニ卒業見込ノ者ハ該學校長ノ卒業見込證明書添付ノ上入學ヲ出願スルコトヲ得

ハ、專門學校入學檢定規程ニヨル試驗檢定合格者

手續

(一)入學願書(二)戸籍謄本若クハ抄本(抄本ナレバ現存者全部記入セルモノナルヲ要ス)(三)**卒業證明書** 但シ出願當時卒業未了ノ者ハ卒業見込證明書ヲ、入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ入學檢定合格證寫ヲ添付スベシ。(四)**成績證明書**又ハ推薦狀。成績證明書ハ卒業年度ノ成績ヲ記入セルモノ入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ此ノ限リニアラズ。推薦狀ハ(本校所定ノ用紙ヲ交付ス)出身女學校長ノ推薦ニ係ル志願者ハ成績證明書ニ代ヘ推薦狀ヲ提出スベシ。(五)**身體檢査書**(本校所定ノ用紙ヲ交附ス)出身女學校校醫ノ作成ニ係ルモノ但シ入學資格(ハ)ニ

南滿洲鐵道株式會社立

募集人員

社債一部償還公告

當社舊日本電氣工業株式會社

上擔保附い號社債第九次償還

致候處下記番號當籤致候ニ付

十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ其ノ成立後二週間以內ニ之ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ但シ第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ第三號及第四號ニ掲ゲタル事項竝ニ第十五條第七號及第十五號ニ掲ゲタル事項ハ之ヲ登記スルコトヲ要セズ

一　第十五條第一號乃至第三號、第七號及第十五號ニ掲ゲタル事項

二　事務所

三　出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額

四　第十八條ノ二ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名又ハ名稱、住所及保證金額

五　成立ノ年月日

六　理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第三號ニ掲ゲタル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月以內ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第十七條　組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

組合員ノ有スヘキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ增加スルコトヲ得

第十八條　組合員ノ責任ハ第五條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス

第十八條ノ二　工業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ其ノ出資額ノ外一定ノ金額（保證金額）ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スルモノト爲スコトヲ得

資格

イ、修業年限四箇年以上ノ高等女學校卒業者
ロ、專門學校入學者檢定規程ニヨリ一般專門學校入學ニ關シ修業年限四年ノ高等女學校卒業以上ノ學力アリト指定セラレタルモノ但シ前記各號ノ學校在學中ノモノト雖モ其ノ年三月末日マデニ卒業見込ノ者ハ該學校長ノ卒業見込證明書添付ノ上入學ヲ出願スルコトヲ得
ハ、專門學校入學檢定規程ニヨル試驗檢定合格者

手續

(一)入學願書(二)戸籍謄本若クハ抄本(抄本ナレバ現存者全部記入セルモノナルヲ要ス)(三)卒業證明書 但シ出願當時卒業未了ノ者ハ卒業見込證明書ヲ、入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ入學檢定合格證寫ヲ添付スベシ。(四)成績證明書又ハ推薦狀。成績證明書＝卒業年度ノ成績ヲ記入セルモノ入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ此ノ限リニアラズ。推薦狀＝(本校所定ノ用紙ヲ交付ス)出身女學校長ノ推薦ニ係ル志願者ハ成績證明書ニ代ヘ推薦狀ヲ提出スベシ。(五)身體檢査書(本校所定ノ用紙ヲ交付ス)出身女學校校醫ノ作成ニ係ルモノ但シ入學資格(ハ)ニ

南滿洲鐵道株式會社立

募集人員

社債一部償還公告
當社舊日本電氣工業株式會社
上擔保附い號社債第九次償還
致候處下記番號當籤致候ニ付

第十九條 組合員ハ總組合員ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ理事ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

理事カ正當ノ理由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後二週間内ニ總會招集ノ手續ヲ爲サザルトキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第二十條 工業組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員又ハ組合員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ第十二條第一項ノ場合ニ在リテハ設立同意者又ハ設立同意者タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ、第二十八條ノ四第一項ノ場合ニ在リテハ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ組合員タル資格ヲ有スル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ効力ヲ生ゼズ

第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第二十條ノ二 第三條第一項第一號ノ事業ヲ行フ工業組合ニシテ全國ヲ地區トスルモノ若ハ第八條ノ規定ニ依ル命令アリタルモノ又ハ第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ノ理事ノ選任及解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ効力ヲ生ゼズ

組合ガ前項ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル場合ニ於テ現ニ其ノ職ニ在ル理事ハ其ノ選任ニ付前項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第一項ニ掲ゲタル組合ノ理事ノ選任ニ付テハ前條第三項ノ規

定ニ依ル認可ヲ受クルコトヲ要セズ

第二十一條　組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ三ヲ超エサル範圍内ニ於テ出資口數ニ應シ二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第二十一條ノ二　組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス

前項ノ代理人ハ組合員タルコトヲ要ス但シ法人タル組合員ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スヘシ

第二十二條　經費ヲ組合員ニ分賦スル工業組合ニ在リテハ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ但シ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ創立總會ニ於テ之ヲ議決スヘシ

前項ノ總會ノ議決ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　組合員タル資格ヲ有スル者工業組合ニ加入セムトスルトキハ組合ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條　組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ工業組合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得

組合ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條　檢査ヲ行フ工業組合ニ在リテハ檢査員ヲ置クヘシ

檢査員ノ選任及解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條　工業組合ハ檢査員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

資格

イ、修業年限四箇年以上ノ高等女學校卒業者

ロ、專門學校入學者檢定規程ニヨリ一般專門學校入學ニ關シ修業年限四年ノ高等女學校卒業以上ノ學力アリト指定セラレタルモノ但シ前記各號ノ學校在學中ノモノト雖モ其ノ年三月末日マデニ卒業見込ノ者ハ該學校長ノ卒業見込證明書添付ノ上入學ヲ出願スルコトヲ得

ハ、專門學校入學檢定規程ニヨル試驗檢定合格者

手續

(一)入學願書(二)戶籍謄本若クハ抄本(抄本ナレバ現存者全部記入セルモノナルヲ要ス)(三)**卒業證明書**　但シ出願當時卒業未了ノ者ハ卒業見込證明書ヲ、入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ入學檢定合格證書ヲ添付スベシ。(四)**成績證明書**又ハ推薦狀。成績證明書ハ卒業年度ノ成績ヲ記入セルモノ入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ此ノ限リニアラズ。推薦狀ハ(本校所定ノ用紙ヲ交付ス)出身女學校長ノ推薦ニ係ル志願者ハ成績證明書ニ代ヘ推薦狀ヲ提出スベシ。(五)**身體檢査書**(本校所定ノ用紙ヲ交付ス)出身女學校校醫ノ作成ニ係ルモノ但シ入學資格(ハ)ニ

社債一部償還公告

當社舊日本電氣工業株式會社

上擔保附い號社債第九次償還

致候處下記

南滿洲鐵道株式會社立

募集人員

資格

イ、修業年限四箇年以上ノ高等女學校卒業者
ロ、專門學校入學者檢定規程ニヨリ一般專門學校入學ニ關シ修業年限四年ノ高等女學校卒業以上ノ學力アリト指定セラレタルモノ但シ前記各號ノ學校在學中ノモノト雖モ其ノ年三月末日マデニ卒業見込ノ者ハ該學校長ノ卒業見込證明書添付ノ上入學ヲ出願スルコトヲ得
ハ、專門學校入學檢定規程ニヨル試驗檢定合格者

手續

（一）入學願書（二）戶籍謄本若クハ抄本（抄本ナレバ現存者全部記入セルモノナルヲ要ス）（三）卒業證明書　但シ出願當時卒業未了ノ者ハ卒業見込證明書ヲ、入學資格（ハ）ニ該當ノ者ハ入學檢定合格證寫ヲ添付スベシ。（四）成績證明書又ハ推薦狀。成績證明書＝卒業年度ノ成績ヲ記入セルモノ入學資格（ハ）ニ該當ノ者ハ此ノ限リニアラズ。推薦狀＝（本校所定ノ用紙ヲ交付ス）出身女學校長ノ推薦ニ係ル志願者ハ成績證明書ニ代ヘ推薦狀ヲ提出スベシ。（五）身體檢査書（本校所定ノ用紙ヲ交附ス）出身女學校校醫ノ作成ニ係ルモノ但シ入學資格（ハ）ニ

社債一部償還公告

當社舊日本電氣工業株式會社
上擔保附い號社債第九次償還
致候處下記番號當籤致候

南滿洲鐵道株式會社立

募集人員

第二十七條　行政官廳必要ト認ムルトキハ檢査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十八條　行政官廳必要ト認ムルトキハ工業組合ニ對シ經費ノ收支豫算、其ノ分賦收入方法、定款又ハ第六條ノ二ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二十八條ノ二　組合ノ事業若ハ組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲ガ法令、定款若ハ行政官廳ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害スル虞アルトキハ行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　總會ノ決議ノ取消
二　役員又ハ清算人ノ解任
三　組合ノ事業ノ停止
四　組合ノ解散

第二十八條ノ三　行政官廳當該工業ノ統制ヲ圖リ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ期スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地區及組合員タル資格ヲ定メ其ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ工業組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者行政官廳ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ行政官廳ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第二十八條ノ四　前條第一項ノ規定ニ依リ工業組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十八條ノ五　行政官廳第二十八條ノ三第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ工業組合ノ理事及監事ヲ命ズ

資格

イ、修業年限四箇年以上ノ高等女學校卒業者

ロ、專門學校入學者檢定規程ニヨリ一般專門學校入學ニ關シ修業年限四年ノ高等女學校卒業以上ノ學力アリト指定セラレタルモノ但シ前記各號ノ學校在學中ノモノト雖モ其ノ年三月末日マデニ卒業見込ノ者ハ該學校長ノ卒業見込證明書添付ノ上入學ヲ出願スルコトヲ得

ハ、專門學校入學檢定規程ニヨル試驗檢定合格者

手續

（一）入學願書（二）戶籍謄本若クハ抄本（抄本ナレバ現存者全部記入セルモノナルヲ要ス）（三）卒業證明書　但シ出願當時卒業未了ノ者ハ卒業見込證明書ヲ、入學資格（ハ）ニ該當ノ者ハ入學檢定合格證寫ヲ添付スベシ。（四）成績證明書又ハ推薦狀。成績證明書＝卒業年度ノ成績ヲ記入セルモノ入學資格（ハ）ニ該當ノ者ハ此ノ限リニアラズ。推薦狀＝（本校所定ノ用紙ヲ交付ス）出身女學校長ノ推薦ニ係ル志願者ハ成績證明書ニ代ヘ推薦狀ヲ提出スベシ。（五）身體檢査書（本校所定ノ用紙ヲ交附ス）出身女學校校醫ノ作成ニ係ルモノ但シ入學資格（ハ）ニ

南滿洲鐵道株式會社立

募集人員

公告　還償部一債社

當社舊日本電氣工業株式會社

前項ノ理事ハ遲滯ナク總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會ニ於テハ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ヲ議決スベシ

第二十二條第二項ノ規定ハ前項ノ議決ニ準用ス

第二十八條ノ六　第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ハ第三條第一項第二號及第二項ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第二十八條ノ七　第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合成立シタルトキハ其ノ組合ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第二十八條ノ八　第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ハ其ノ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得ズ

第二十八條ノ九　第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ハ合併ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十九條　工業組合聯合會ハ所屬ノ工業組合及工業組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲之ヲ設立スルコトヲ得

聯合會ハ工業組合又ハ工業組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス但シ特別ノ事由アルトキハ組合、聯合會又ハ其ノ組合ノ組合員ト同種ノ工業ヲ營ム者ヲ以テ之ヲ組織スルコトヲ得

聯合會ハ法人トス

第三十條　工業組合聯合會ヲ設立セムトスルトキ又ハ第三十三條ノ規定ニ依リ準用シタル第二十八條ノ三ノ規定ニ依リ其ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ各組合、聯合會及工業者ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第三十一條　創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第十四條ノ規定ハ創立委員ニ付之ヲ準用ス

資格

イ、修業年限四箇年以上ノ高等女學校卒業者

ロ、專門學校入學者檢定規程ニヨリ一般專門學校入學ニ關シ修業年限四年ノ高等女學校卒業以上ノ學力アリト指定セラレタルモノ但シ前記各號ノ學校在學中ノモノト雖モ其ノ年三月末日マデニ卒業見込ノ者ハ該學校長ノ卒業見込證明書添付ノ上入學ヲ出願スルコトヲ得

ハ、專門學校入學檢定規程ニヨル試驗檢定合格者

手續

(一)入學願書(二)戶籍謄本若クハ抄本(抄本ナレバ現存者全部記入セルモノナルヲ要ス)(三)卒業證明書 但シ出願當時卒業未了ノ者ハ卒業見込證明書ヲ、入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ入學檢定合格證寫ヲ添付スベシ。(四)成績證明書又ハ推薦狀。成績證明書＝卒業年度ノ成績ヲ記入セルモノ入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ此ノ限リニアラズ。推薦狀＝(本校所定ノ用紙ヲ交付ス)出身女學校長ノ推薦ニ係ル志願者ハ成績證明書ニ代ヘ推薦狀ヲ提出スベシ。(五)身體檢査書(本校所定ノ用紙ヲ交付ス)出身女學校校醫ノ作成ニ係ルモノ但シ入學資格(ハ)ニ

社

募集人員

南滿洲鐵道株式會社立

社債一部償還公告

當社舊日本電氣工業株式會社

上擔保附い號社債第九次償還

致候處下記番號當籤致候ニ付

前二項ノ規定ハ第三十三條ノ規定ニ依リ準用シタル第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合聯合會ニ付テハ之ヲ適用セズ

第三十二條 工業組合聯合會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ所屬ノ組合及聯合會ノ理事若ハ監事又ハ所屬ノ工業者若ハ所屬ノ工業者タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ聯合會設立當時ノ理事及監事ハ創立委員會ニ於テ之ヲ選任スヘシ

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ効力ヲ生ゼズ

第三十三條 工業組合ニ關スル規定ハ第三十八條ノ規定ニ依リ準用シタル產業組合法第三十八條ノ二ノ規定ヲ除クノ外工業組合聯合會ニ付之ヲ準用ス但シ第三條中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會、工業者及組合員トシ第二十條ノ二中全國トアルハ道府縣ノ區域ヲ超ユル區域トス

第三十四條 設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ定款及創立總會又ハ總會ノ決議錄ノ謄本、組合ノ設立アリタルコトヲ證スル書面、出資ノ總口數ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面竝理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニシテ行政官廳ノ處分ニ因リ成立シタルモノニ在リテハ創立總會又ハ總會ノ決議錄ノ謄本、出資ノ總口數ヲ證スル書面及出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面、其ノ他ノモノニ在リテハ出資ノ總口數ヲ證スル書面及出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面ハ之ヲ添附スルコトヲ要セズ

第三十五條 事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記

資格

イ、修業年限四箇年以上ノ高等女學校卒業者

ロ、專門學校入學者檢定規程ニヨリ一般專門學校入學ニ關シ修業年限四年ノ高等女學校卒業以上ノ學力アリト指定セラレタルモノ但シ前記各號ノ學校在學中ノモノト雖モ其ノ年三月末日マデニ卒業見込ノ者ハ該學校長ノ卒業見込證明書添付ノ上入學ヲ出願スルコトヲ得

ハ、專門學校入學檢定規程ニヨル試驗檢定合格者

手續

(一)**入學願書**(二)**戶籍謄本若クハ抄本**(抄本ナレバ現存者全部記入セルモノナルヲ要ス)(三)**卒業證明書**　但シ出願當時卒業未了ノ者ハ卒業見込證明書ヲ、入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ入學檢定合格證書ヲ添付スベシ。(四)**成績證明書**又ハ推薦狀。成績證明書＝卒業年度ノ成績ヲ記入セルモノ入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ此ノ限リニアラズ。推薦狀＝(本校所定ノ用紙ヲ交付ス)出身女學校長ノ推薦ニ係ル志願者ハ成績證明書ニ代ヘ推薦狀ヲ提出スベシ。(五)**身體檢査書**(本校所定ノ用紙ヲ交附ス)出身女學校校醫ノ作成ニ係ルモノ但シ入學資格(ハ)ニ

社債一部償還公告

當社舊日本電氣工業株式會社

上擔保附い號社債第九次償還

致候處下記當番號當籤致候ニ付

南滿洲鐵道株式會社

募集人員

ハ理事又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ但シ合併又ハ出資一口ノ金額若ハ保證金額ノ減少ニ因ル變更ノ登記ハ理事及監事ノ全員ヨリ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面及登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル申請人カ同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ登記申請書ニハ前項ニ規定スル書面ノ外本法ニ依リ催告ヲ爲シタルコト及異議ヲ述ヘタル債權者アル場合ニ於テハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十六條　解散ノ登記ハ合併ニ因ル解散ノ場合ニ於テハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員其ノ他ノ場合ニ於テハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ解散ノ理由ヲ證スル書面及理事カ清算人タラサル場合ニ於テハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前條第三項ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ニ付之ヲ準用ス

工業組合カ命令ニ因リ解散シタルトキハ登記所ハ行政官廳ノ囑託ニ因リ登記ヲ爲スヘシ

第三十七條　清算結了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第三十八條　民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條、第六十條、第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十六條、第七十條、第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條、非訟事件手續法第百三十八條、第百三十八條ノ三、第百四十一條乃至第百五十

資格

イ、修業年限四箇年以上ノ高等女學校卒業者

ロ、專門學校入學者檢定規程ニヨリ一般專門學校入學ニ關シ修業年限四年ノ高等女學校卒業以上ノ學力アリト指定セラレタルモノ但シ前記各號ノ學校在學中ノモノト雖モ其ノ年三月末日マデニ卒業見込ノ者ハ該學校長ノ卒業見込證明書添付ノ上入學ヲ出願スルコトヲ得

ハ、專門學校入學檢定規程ニヨル試驗檢定合格者

手續

（一）入學願書（二）戶籍謄本若クハ抄本（抄本ナレバ現存者全部記入セルモノナルヲ要ス）（三）卒業證明書 但シ出願當時卒業未了ノ者ハ卒業見込證明書ヲ、入學資格（ハ）ニ該當ノ者ハ入學檢定合格證寫ヲ添付スベシ。（四）成績證明書又ハ推薦狀。成績證明書＝卒業年度ノ成績ヲ記入セルモノ入學資格（ハ）ニ該當ノ者ハ此ノ限リニアラズ。推薦狀＝（本校所定ノ用紙ヲ交付ス）出身女學校長ノ推薦ニ係ル志願者ハ成績證明書ニ代ヘ推薦狀ヲ提出スベシ。（五）身體檢査書（本校所定ノ用紙ヲ交附ス）出身女學校校醫ノ作成ニ係ルモノ但シ入學資格（ハ）ニ

募集人員

南滿洲鐵道株式會社立

社債一部償還公告

當社舊日本電氣工業株式會社

上擔保附い號社債第九次償還

致候處下記番號當籤致候ニ付

三 本法ニ依ル屆出ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ屆出ヲ爲シタルトキ

四 行政官廳又ハ總會若ハ總代會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

五 本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サス又ハ其ノ檢査ヲ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ

六 本法ニ依ル總會又ハ總代會ノ招集ヲ怠リタルトキ

七 本法ニ依リ事務所ニ備置クヘキ書類ヲ備ヘサルトキ、其ノ書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閲覽ヲ拒ミタルトキ

八 本法ニ違反シテ組合員ノ持分ヲ拂戾シタルトキ

九 本法ニ違反シテ組合カ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

十 本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セサルトキ

十一 本法ニ違反シテ出資一口ノ金額若ハ保證金額ヲ減少シ、第三十八條ノ規定ニ依リ準用シタル產業組合法第五十八條ノ責任期間ノ短縮ヲ爲シ又ハ組合ノ合併ヲ爲シタルトキ

十二 本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

十三 清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨濟ヲ爲シ又ハ組合財產ノ分配ヲ爲シタルトキ

十四 法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ

十五 組合ノ目的ニ非サル營利事業ヲ爲シタルトキ

第四十條 第四條第二項（第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）又ハ第三項（第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

資格

イ、修業年限四箇年以上ノ高等女學校卒業者

ロ、專門學校入學者檢定規程ニヨリ一般專門學校入學ニ關シ修業年限四年ノ高等女學校卒業以上ノ學力アリト指定セラレタルモノ但シ前記各號ノ學校在學中ノモノト雖モ其ノ年三月末日マデニ卒業見込ノ者ハ該學校長ノ卒業見込證明書添付ノ上入學ヲ出願スルコトヲ得

ハ、專門學校入學檢定規程ニヨル試驗檢定合格者

手續

(一)入學願書(二)戶籍謄本若クハ抄本(抄本ナレバ現存者全部記入セルモノナルヲ要ス)(三)卒業證明書 但シ出願當時卒業未了ノ者ハ卒業見込證明書ヲ、入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ入學檢定合格證寫ヲ添付スベシ。(四)成績證明書又ハ推薦狀。成績證明書＝卒業年度ノ成績ヲ記入セルモノ入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ此ノ限リニアラズ。推薦狀＝(本校所定ノ用紙ヲ交付ス)出身女學校長ノ推薦ニ係ル志願者ハ成績證明書ニ代ヘ推薦狀ヲ提出スベシ。(五)身體檢査書(本校所定ノ用紙ヲ交附ス)出身女學校校醫ノ作成ニ係ルモノ但シ入學資格(ハ)ニ [illegible]

上

一募集人員

南滿洲鐵道株式會社立

社債一部償還公告

當社舊日本電氣工業株式會社

上擔保附い號社債第九次償還

致候處下記番號當籤致候ニ付

第四十一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第四十二條 第八條ノ規定（第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

販賣ノ目的ヲ以テ前項ノ犯罪ニ係ル工產品ナルコトヲ知リテ其ノ交付ヲ受ケタル者亦前項ニ同ジ

前二項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル工產品ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第四十二條ノ二 工產品ニ關スル業ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十二條ノ三 第四十二條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十二條ノ四 正當ノ理由ナクシテ第八條ノ二ノ規定（第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル當該官吏ノ臨檢、檢査、搜索又ハ差押ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 工業組合ノ證票若ハ檢査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證票若ハ檢査證ヲ僞造若ハ變造シタル者又ハ僞造若ハ變造ノ證票若ハ檢査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 工業組合ノ理事、監事若ハ清算人又ハ檢査員其ノ

資格

イ、修業年限四箇年以上ノ高等女學校卒業者
ロ、專門學校入學者檢定規程ニヨリ一般專門學校入學ニ關シ修業年限四年ノ高等女學校卒業以上ノ學力アリト指定セラレタルモノ但シ前記各號ノ學校在學中ノモノト雖モ其ノ年三月末日マデニ卒業見込ノ者ハ該學校長ノ卒業見込證明書添付ノ上入學ヲ出願スルコトヲ得
ハ、專門學校入學檢定規程ニヨル試驗檢定合格者

手續

(一)**入學願書**(二)**戸籍謄本若クハ抄本**(抄本ナレバ現存者全部記入セルモノナルヲ要ス)(三)**卒業證明書** 但シ出願當時卒業未了ノ者ハ卒業見込證明書ヲ、入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ入學檢定合格證寫ヲ添付スベシ。(四)**成績證明書**又ハ推薦狀。成績證明書=卒業年度ノ成績ヲ記入セルモノ入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ此ノ限リニアラズ。推薦狀=(本校所定ノ用紙ヲ交付ス)出身女學校長ノ推薦ニ係ル志願者ハ成績證明書ニ代ヘ推薦狀ヲ提出スベシ。(五)**身體檢査書**(本校所定ノ用紙ヲ交附ス)出身女學校校醫ノ作成ニ係ルモノ但シ入學資格(ハ)ニ…

生

募集人員

南滿洲鐵道株式會社立

社債一部償還公告
當社舊日本電氣工業株式會社
上擔保附い號社債第九次償還
致候處下記番號當籤致候ニ付

職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第四十五條 前條第一項ニ掲ケタル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十六條 第四十三條ニ掲ケタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ、第四十四條ニ掲ケタル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

第四十七條 工業組合中央會ハ工業組合及工業組合聯合會ノ普及、發達及連絡ヲ圖ル目的ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

工業組合中央會ハ法人トス

第四十八條 工業組合中央會ハ其ノ名稱中ニ工業組合中央會ナル文字ヲ用フヘシ

第四十九條 工業組合中央會ハ全國ヲ通ジテ一箇トシ其ノ設立ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

工業組合中央會ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 工業組合及工業組合聯合會ハ工業組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得

前項以外ノ者ト雖モ定款ノ定ムル所ニ依リ工業組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得

第五十一條 工業組合中央會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 目的
二 名稱

資格

イ、修業年限四箇年以上ノ高等女學校卒業者

ロ、專門學校入學者檢定規程ニヨリ一般專門學校入學ニ關シ修業年限四年ノ高等女學校卒業以上ノ學力アリト指定セラレタルモノ但シ前記各號ノ學校在學中ノモノト雖モ其ノ年三月末日マデニ卒業見込ノ者ハ該學校長ノ卒業見込證明書添付ノ上入學ヲ出願スルコトヲ得

ハ、專門學校入學檢定規程ニヨル試驗檢定合格者

手續

(一)入學願書(二)**戶籍謄本若クハ抄本**(抄本ナレバ現存者全部記入セルモノナルヲ要ス)(三)**卒業證明書** 但シ出願當時卒業未了ノ者ハ卒業見込證明書ヲ、入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ入學檢定合格證寫ヲ添付スベシ。(四)**成績證明書**又ハ推薦狀。成績證明書＝卒業年度ノ成績ヲ記入セルモノノ入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ此ノ限リニアラズ。推薦狀＝(本校所定ノ用紙ヲ交付ス)出身女學校長ノ推薦ニ係ル志願者ハ成績證明書ニ代ヘ推薦狀ヲ提出スベシ。(五)**身體檢查書**(本校所定ノ用紙ヲ交附ス)出身女學校校醫ノ作成ニ係ルモノ但シ入學資格(ハ)ニ

南滿洲鐵道株式會社立

募集人員

社債一部償還公告

當社舊日本電氣工業株式會社

上擔保附い號社債第九次償還

致候處下記番號當籤致候ニ付

三　事務所ノ所在地
四　會員ノ加入及脱退ニ關スル規定
五　會員ノ權利義務ニ關スル規定
六　資產ニ關スル規定
七　事業及其ノ執行ニ關スル規定
八　役員ニ關スル規定
九　會議ニ關スル規定
十　存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第五十二條　工業組合中央會設立ノ認可アリタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ

一　前條第一號、第二號及第十號ニ掲ゲタル事項
二　事務所
三　資產ノ總額
四　設立認可ノ年月日
五　理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第三號ニ掲ゲタル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後二月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第五十三條　工業組合中央會ニハ理事及監事ヲ置クベシ

第五十四條　工業組合中央會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ會員タル工業組合若ハ工業組合聯合會ノ理事若ハ監事又ハ第五十條第二項ノ會員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ中央會設立當時ノ理事及監事ノ選任方法ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第五十五條　第四條第二項、第十九條、第二十一條、第二十三條、第二十八條、第二十八條ノ二及第三十四條乃至第四十一條

格

イ、修業年限四箇年以上ノ高等女學校卒業者
ロ、專門學校入學者檢定規程ニヨリ一般專門學校入學ニ關シ修業年限四年ノ高等女學校卒業以上ノ學力アリト指定セラレタルモノ但シ前記各號ノ學校在學中ノモノト雖モ其ノ年三月末日マデニ卒業見込ノ者ハ該學校長ノ卒業見込證明書添付ノ上入學ヲ出願スルコトヲ得
ハ、專門學校入學檢定規程ニヨル試驗檢定合格者

續

(一)**入學願書**(二)**戸籍謄本若クハ抄本**(抄本ナレバ現存者全部記入セルモノナルヲ要ス)(三)**卒業證明書** 但シ出願當時卒業未了ノ者ハ卒業見込證明書ヲ、入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ入學檢定合格證寫ヲ添付スベシ。(四)**成績證明書又ハ推薦狀**。成績證明書＝卒業年度ノ成績ヲ記入セルモノ入學資格(ハ)ニ該當ノ者ハ此ノ限リニアラズ。推薦狀＝(本校所定ノ用紙ヲ交付ス)出身女學校長ノ推薦ニ係ル志願者ハ成績證明書ニ代ヘ推薦狀ヲ提出スベシ。(五)**身體檢査書**(本校所定ノ用紙ヲ交附ス)出身女學校校醫ノ作成ニ係ルモノ但シ入學資格(ハ)ニ

南滿洲鐵道株式會社立

募集人

社債一部償還公告

當社舊日本電氣工業株式會社
上擔保附い號社債第九次償還
致候處下記番號當籤致候ニ付

ノ規定ハ工業組合中央會ニ付之ヲ準用ス但シ第三十八條ノ規定ニ依リ準用シタル非訟事件手續法第百四十一條竝ニ產業組合法第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第四十六條、第四十八條、第五十一條乃至第五十八條、第六十三條ノ二、第六十四條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條、第七十七條第三項及第七十八條ノ規定ヲ除ク

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則（昭和六年法律第六十二號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
日本勸業銀行法、農工銀行法、北海道拓殖銀行法、印紙稅法及登錄稅法中重要輸出品工業組合トアルハ工業組合トシ重要輸出品工業組合聯合會トアルハ工業組合聯合會トシ重要輸出品工業組合法トアルハ工業組合法トス

附　則（昭和八年法律第二十號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行前ニ第八條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反スル行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ仍從前ノ第四十條及第四十二條ノ規定ヲ適用ス
登錄稅法第十九條第七號中「工業組合聯合會、」ノ下ニ「工業組合中央會、」ヲ加フ

附　則（昭和十二年法律第七十五號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第二十條ノ二第一項（第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ該當スル工業組合又ハ工業組合聯合會ノ理事ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者ハ其ノ選任ニ付同條ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第四十五條（第一項略）

法人ノ設立ハ其主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

法人設立ノ後新ニ事務所ヲ設ケタルトキハ一週間内ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四十八條 法人カ其事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ一週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ同期間内ニ第四十六條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ事務所ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノミノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十條 法人ノ住所ハ其主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第五十二條第二項 理事數人アル場合ニ於テ定款又ハ寄附行爲

統制機關ハ毎月二十日迄ニ前月
分ケ、販賣シ又ハ輸出ノ委託ヲ爲
指定輸出品ノ種類別數量及價額ヲ
臣ニ報告スベシ

配給機關ハ毎月二十日迄ニ前月
賣シタル指定輸出品用原材料ノ種
量及價額ヲ商工大臣ニ報告スベシ

則

和十六年一月二十日ヨリ之ヲ施行

年九月十日公布法律第九十二號ハ輸出入品等臨時措置ニ關スル件ナリ

第百七號

規則中左ノ通改正ス

五年十二月二十三日

商工大臣 小林 一三

但シ第二條ノ規定ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

昭和十五年十二月商工省令第九十四號用紙規格規則抄錄

第一條 商工大臣ノ指定シタル用紙ハ左ニ掲グル規格ニ依ルニ非ザレバ之ヲ抄造スルコトヲ得ズ但シ輸出註文（關東州、滿洲又ハ支那向ノモノヲ除ク）ニ係ル場合及特別ノ事情ニ依リ商工大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 卷取紙ノ幅ノ標準寸法

A列用 六三〇粍若ハ八八〇粍又ハ其ノ倍數

B列用 七七〇粍若ハ一〇九〇粍又ハ其

キ亦同ジ

服制ノ定メアル者制服以外ノ被服ヲ著用スルト

徽章圖

奏任官ハ金線、判任官ハ銀線、雇員ハ白線、傭人其ノ他ノ者ハ赫線トス（奏任官、判任官中ニハ其ノ部隊内限リノ同待遇者ヲ含ム）

星形ノ中心ヨリ尖端ニ至ル長サ二、四五粍トシ品質ヲ問ハズ線ノ幅ヲ〇、四五粍トス

償還期限 昭和二　年　月　日迄

利率 年三分五厘

利子支拂期 三月一日及九月一日

初期利子（昭和十六年三月一日渡）額面百圓ニ付六十七錢

右昭和十五年十二月二十一日之ヲ發行セリ

昭和十五年十二月二十三日

大藏大臣 河田 烈

◉**陸軍省告示第五十九號**

昭和十六年四月採用スベキ現役技術部將校

工業組合法中改正法律案

工業組合法中左ノ通改正ス

第八條ノ四　第八條ノ規定ニ依リ組合ノ定ムル制限ニ從フベキコトノ命令アリタル場合ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ命令ノ效力ヲ有スル期間ヲ限リ當該工業組合ノ地區內ニ於テ新ニ當該工業ヲ營マントスル者及當該工業ニ屬スル設備ノ擴張ヲ爲サントスル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條ノ三　行政官廳監督上特ニ必要アリト認ムルトキハ第三條第一項第一號ノ事業經營ニ對スル制限ヲ行フ工業組合ノ理事又ハ監事ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選任セラレタル理事又ハ監事ノ解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

特別ノ事情アル場合ニ於テハ行政官廳ハ第三條第一項第一號ノ事業經營ニ對スル制限ヲ行フ工業組合ノ定款又ハ第六條ノ二ノ規程ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第三十三條中「第三十八條ノ規定」ヲ「第八條ノ四ノ規定及第三十八條ノ規定」ニ改ム

第三十三條ノ二　工業小組合ハ小工業者ヲ以テ之ヲ組織シ組合員ノ共同ノ利益增進ヲ圖ルヲ以テ目的トシ組合員ノ工業ニ關スル共同設備ノ設置、組合員ノ工業ニ必要ナル物ノ供給、組合員ノ爲ノ註文ノ引受及組合員ノ製品ノ販賣ヲ爲スモノトス

前項ノ小工業者ノ範圍ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

工業小組合ハ法人トス

工業小組合ハ第一項ノ事業ノ外組合員ノ營業ニ關スル指導、研究、調査其ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

工業小組合ハ其ノ名稱中ニ工業小組合ナル文字ヲ用フベシ

第三十三條ノ三　工業小組合ノ組合員ノ總數ハ十人ヲ超エザルヲ以テ例トス

第三十三條ノ四　工業小組合ヲ設立セントスルトキハ組合員タラントスル者全員設立者ト爲リ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

工業小組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

理事及監事ハ總會ニ於テ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第三十三條ノ五　組合員タル資格ヲ有スル者ハ組合員ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得テ工業小組合ニ加入スルコトヲ得

第三十三條ノ六　工業小組合ハ當該工業ニ關スル工業組合ノ組合員タルコトヲ得

小工業者工業小組合ノ組合員ト爲リタルトキハ當該工業ニ關スル工業組合ノ組合員タルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

行政官廳必要ト認ムルトキハ工業小組合ニ對シ當該工業ニ關スル工業組合ニ加入スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキハ當該工業小組合ハ當該工業組合ノ組合員トス

第三十三條ノ七　工業小組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　目的

二　名稱

三　事務所

四　組合員タル資格ニ關スル規定及組合員ノ總數

五　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定

六　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

七　剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定

八　準備金ノ額及其ノ積立ノ方法
九　組合員ノ權利義務ニ關スル規定
十　事業及其ノ執行ニ關スル規定
十一　役員ニ關スル規定
十二　會議ニ關スル規定
十三　會計ニ關スル規定
十四　存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第三十三條ノ八　工業小組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間以内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ
登記スベキ事項左ノ如シ
一　前條第一號乃至第三號、第六號及第十四號ニ掲ゲタル事項

二　出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額
三　設立認可ノ年月日
四　理事及監事ノ氏名及住所
前項ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第二號ニ掲ゲタル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得
第三十三條ノ九　工業小組合ニハ營業收益税ヲ課セズ
第三十三條ノ十　第四條第二項、第九條、第十五條ノ二、第十七條第一項、第十八條、第十九條、第二十一條（但書ヲ除ク）、第二十四條、第二十八條第一項、第二十八條ノ二、第三十四條乃至第三十七條及第三十九條乃至第四十一條、民法第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十條及第六十六條、非訟事件手續法第百三十八條、第百三十八條ノ三、第百四十一條乃至第百五

十一條ノ六、第百五十四條乃至第百五十八條、第百六十五條、第百七十五條、第百七十六條及第百七十八條竝ニ産業組合法第五條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十一條、第二十四條、第二十六條乃至第三十四條、第三十四條ノ二第一項、第三十五條、第三十六條、第三十九條乃至第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十八條、第四十八條ノ二、第五十一條乃至第五十七條、第六十條、第六十條ノ二、第六十二條（第一項第三號及第四號ヲ除ク）、第六十三條第一項、第六十五條、第六十九條乃至第七十三條ノ三、第七十四條第一項、第七十四條ノ二第一項、第七十五條、第九十六條、第九十七條及第百四條ノ規定ハ工業小組合ニ付之ヲ準用ス但シ産業組合法中地方長官又ハ監督官廳トアルハ之ヲ行政官廳トス

第三十八條但書中「民法第四十五條第三項及第四十八條第一項中一週間トアルハ之ヲ二週間トシ」及「主務大臣、」ヲ削ル

第四十條中「第四條第二項（第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）」ヲ「第四條第二項

（第三十三條及第三十三條ノ十ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）」ニ改ム

第四十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第八條ノ規定（第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者

二　販賣ノ目的ヲ以テ前號ノ犯罪ニ係ル工產品ナルコトヲ知リテ其ノ交付ヲ受ケタル者

三　第八條ノ四ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ當該工業ヲ營ミ又ハ設備ノ擴張ヲ爲シタル者

前項第一號又ハ第二號ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル工產品ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登錄稅法第十九條第七號、印紙稅法第四條第一項第十一號竝ニ商工組合中央金庫法第一條第一項、第七條第一項、第二十八條第一項第六號及第二十九條第一項第三號中「工業組合聯合會」ノ下ニ「工業小組合」ヲ加フ

工業組合法中改正法律案理由書

我國中小工業ノ實情ニ卽應シ小工業者ノ共同經營的組織體ヲ認ムルト共ニ物資配給統制ノ進展ニ伴ヒ工業組合制度ノ公共的使命增大セルニ鑑ミ之ガ監督ヲ更ニ徹底スル爲工業組合法中改正ヲ要スルモノアリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

商甲五三

濟

昭和十四年七月二十日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣 陸軍大臣 文部大臣 遞信大臣
内務大臣 海軍大臣 農林大臣 鐵道大臣
大藏大臣 司法大臣 商工大臣 拓務大臣
厚生大臣
近衛樞密院議長

別紙大藏商工両大臣請議昭和十四年法律第六十五號施行期日ノ件ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕昭和十四年法律第六十五號工業組合法中改正法律施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十四年七月二十五日

内閣總理大臣

大藏大臣

商工大臣

呈案ノ通

法制局

法制局商第四六號
昭和十四年七月十八日
主任 増岡事務官

閣商第三七號

昭和十四年法律第六十五號ノ施行期日ヲ定ムル爲勅令制定ノ必要有之別紙勅令案竝ニ理由書ヲ具シ此段閣議ヲ請フ

昭和十四年七月十七日

商工大臣 八田嘉明

大藏大臣 石渡莊太郎

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

商甲 五三

商工省

内閣官房總務課
14.7.18

本條者同

勅令第四百九十四號

昭和十四年法律第六十五號ハ昭和十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

商工省

理由

昭和十四年法律第六十五號施行ノ爲同法律附則第一項ニ基キ之ガ期日ヲ定ムル要アルニ依ル

商工省

参照

工業組合法中改正法律

昭和十四年四月法律第六十五號（總理、商工、大藏大臣副署）

工業組合法中左ノ通改正ス

第八條ノ四　第八條ノ規定ニ依リ組合ノ定ムル制限ニ從フベキコトノ命令アリタル場合ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ命令ノ效力ヲ有スル期間ヲ限リ當該工業組合ノ地區内ニ於テ新ニ當該工業ヲ營マントスル者及當該工業ニ屬スル設備ノ擴張ヲ爲サントスル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條ノ三　行政官廳監督上特ニ必要アリト認ムルトキハ第三條第一項第一號ノ事業經營ニ對スル制限ヲ行フ工業組合ノ理事又ハ監事ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選任セラレタル理事又ハ監事ノ解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

特別ノ事情アル場合ニ於テハ行政官廳ハ第三條第一項第一號ノ事業經營ニ對スル制限ヲ行フ工業組合ノ定款又ハ第六條ノ二ノ規程ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第三十三條中「第三十八條ノ規定」ヲ「第八條ノ四ノ規定及第三十八條ノ規定」ニ改ム

第三十三條ノ二　工業小組合ハ小工業者ヲ以テ之ヲ組織シ組合員ノ共同ノ利益増進ヲ圖ルヲ以テ目的トシ組合員ノ工業ニ關スル共同設備ノ設置、組合員ノ工業ニ必要ナル物ノ供給、組合員ノ爲ノ註文ノ引受及組合員ノ製品ノ販賣ヲ爲スモノトス

前項ノ小工業者ノ範圍ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

工業小組合ハ法人トス

工業小組合ハ第一項ノ事業ノ外組合員ノ營業ニ關スル指導、研究、調査其ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

工業小組合ハ其ノ名稱中ニ工業小組合ナル文字ヲ用フベシ

第三十三條ノ三　工業小組合ノ組合員ノ總數ハ十人ヲ超エザルヲ以テ例トス

第三十三條ノ四　工業小組合ヲ設立セントスルトキハ組合員タラントスル者全員設立者ト爲リ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

工業小組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

理事及監事ハ總會ニ於テ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第三十三條ノ五　組合員タル資格ヲ有スル者ハ組合員ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得テ工業小組合ニ加入スルコトヲ得

第三十三條ノ六　工業小組合ハ當該工業ニ關スル工業組合ノ組合員タルコトヲ得

小工業者工業小組合ノ組合員ト爲リタルトキハ當該工業ニ關スル工業組合ノ組合員タルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

行政官廳必要ト認ムルトキハ工業小組合ニ對シ當該工業ニ關スル工業組合ニ加入スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキハ當該工業小組合ハ當該工業組合ノ組合員トス

第三十三條ノ七　工業小組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　目的

二　名稱

三　事務所

四　組合員タル資格ニ關スル規定及組合員ノ總數

五　組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

六　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

七　剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定

八　準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

九　組合員ノ權利義務ニ關スル規定

十　事業及其ノ執行ニ關スル規定

十一　役員ニ關スル規定

十二　會議ニ關スル規定

十三　會計ニ關スル規定

十四　存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第三十三條ノ八　工業小組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間以内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ

一　前條第一號乃至第三號、第六號及第十四號ニ揭ゲタル事項

二　出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額

三　設立認可ノ年月日

四　理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第二號ニ掲ゲタル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第三十三條ノ九　工業小組合ニハ營業收益税ヲ課セズ

第三十三條ノ十　第四條第二項、第九條、第十五條ノ二、第十七條第一項、第十八條、第十九條、第二十一條（但書ヲ除ク）、第二十四條、第二十八條第一項、第二十八條ノ二、第三十四條乃至第三十七條及第三十九條乃至第四十一條、民法第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十條及第六十六條、非訟事件手續法第百三十八條、第百三十八條ノ三、第百四十一條乃至第百五

十一條ノ六、第百五十四條乃至第百五十八條、第百六十五條、第百七十五條、第百七十六條及第百七十八條竝ニ產業組合法第五條、第十一條第二項、第十二條、第十八條乃至第二十一條、第二十四條、第二十六條乃至第三十四條、第三十四條ノ二第一項、第三十五條、第三十六條、第三十九條乃至第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十八條、第四十八條ノ二、第五十一條乃至第五十七條、第六十條、第六十條ノ二、第六十二條（第一項第三號及第四號ヲ除ク）、第六十三條第一項、第六十五條、第六十九條乃至第七十三條ノ三、第七十四條第一項、第七十四條ノ二第一項、第七十五條、第九十六條、第九十七條及第百四條ノ規定ハ工業小組合ニ付之ヲ準用ス但シ產業組合法中地方長官又ハ監督官廳トアルハ之ヲ行政官廳トス

第三十八條但書中「民法第四十五條第三項及第四十八條第一項中一週間トアルハ之ヲ二週間トシ」及「主務大臣、」ヲ削ル

第四十條中「第四條第二項（第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）」ヲ「第四條第二項

（第三十三條及第三十三條ノ十ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）」ニ改ム

第四十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第八條ノ規定（第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者

二　販賣ノ目的ヲ以テ前號ノ犯罪ニ係ル工產品ナルコトヲ知リテ其ノ交付ヲ受ケタル者

三　第八條ノ四ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ當該工業ヲ營ミ又ハ設備ノ擴張ヲ爲シタル者

前項第一號又ハ第二號ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル工產品ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登錄稅法第十九條第七號、印紙稅法第四條第一項第十一號並ニ商工組合中央金庫法第一條第一項、第七條第一項、第二十八條第一項第六號及第二十九條第一項第三號中「工業組合聯合會」ノ下ニ「工業小組合」ヲ加フ

四

済

商甲四六

昭和十四年七月二十日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

遞信大臣

厚生大臣

内務大臣

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

近衛樞密院議長

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

別紙商工大臣請議工業組合法第三十三條ノ二第二項ノ規定ニ依リ小工業者ノ範圍ヲ定ムルノ件ヲ審査スルニ右ハ相當ノ議ト思考ス依テ請議ノ通

法制局

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕工業組合法第三十三條ノ二第二項ノ規定ニ依リ小工業者ノ範圍ヲ定ムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十四年七月二十五日

内閣總理大臣

商工大臣

呈案附箋ノ通

法制局

法制局商第三九號
昭和十四年六月十五日

主任 商工事務官 增岡尚士

閣商第三五號

昭和十四年法律第六十五號ノ施行ニ伴ヒ勅令制定ノ必要有之別紙勅令案及理由書ヲ具シ至急閣議ヲ請フ

昭和十四年六月十四日

商工大臣 八田嘉明

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

商甲 四六

商工省

長村

勅令第四百九十五號

工業組合法第三十三條ノ二ノ小工業者トハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一 資本金額二萬圓ヲ超エザル工業者

二 商工大臣ノ指定スル種類ノ工業者ニシテ其ノ資本金額商工大臣ノ指定スル金額ヲ超エザルモノ

附 則

本令ハ昭和十四年法律第六十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

商工省

理由

昭和十四年法律第六十五號ノ施行ニ伴ヒ工業組合法第三十三條ノ二ノ第二項規定ニ依リ小工業者ノ範圍ヲ定ムルノ要アルニ依ル

商工省

未施行

参照

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル工業組合法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十四年四月一日

内閣總理大臣 男爵 平沼騏一郎

商工大臣 八田嘉明

大藏大臣 石渡莊太郎

法律第六十五號（官報　四月四日）

工業組合法中左ノ通改正ス

第八條ノ四　第八條ノ規定ニ依リ組合ノ定ムル制限ニ從フベキコトノ命令アリタル場合ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ命令ノ效力ヲ有スル期間ヲ限リ當該工業組合ノ地區內ニ於テ新ニ當該工業ヲ營マントスル者及當該工業ニ屬スル設備ノ擴張ヲ爲サントスル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條ノ三　行政官廳監督上特ニ必要アリト認ムルトキハ第三條第一項第一號ノ事業經營ニ對スル制限ヲ行フ工業組合ノ理事又ハ監事ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選任セラレタル理事又ハ監事ノ解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

特別ノ事情アル場合ニ於テハ行政官廳ハ第三條第一項第一號ノ事業經營ニ對スル制限ヲ行フ工業組合ノ定款又ハ第六條ノ二ノ規程ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第三十三條中「第三十八條ノ規定」ヲ「第八條ノ四ノ規定及第三十八條ノ規定」ニ改ム

第三十三條ノ二　工業小組合ハ小工業者ヲ以テ之ヲ組織シ組合員ノ共同ノ利益增進ヲ圖ルヲ以テ目的トシ組合員ノ工業ニ關スル共同設備ノ設置、組合員ノ工業ニ必要ナル物ノ供給、組合員ノ爲ノ註文ノ引受及組合員ノ製品ノ販賣ヲ爲スモノトス

前項ノ小工業者ノ範圍ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

工業小組合ハ法人トス

工業小組合ハ第一項ノ事業ノ外組合員ノ營業ニ關スル指導、研究、調査其ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

工業小組合ハ其ノ名稱中ニ工業小組合ナル文字ヲ用フベシ

第三十三條ノ三　工業小組合ノ組合員ノ總數ハ十人ヲ超エザルヲ以テ例トス

第三十三條ノ四　工業小組合ヲ設立セントスルトキハ組合員タラントスル者全員設立者ト爲リ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

工業小組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

理事及監事ハ總會ニ於テ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第三十三條ノ五　組合員タル資格ヲ有スル者ハ組合員ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得テ工業小組合ニ加入スルコトヲ得

第三十三條ノ六　工業小組合ハ當該工業ニ關スル工業組合ノ組合員タルコトヲ得

小工業者工業小組合ノ組合員ト爲リタルトキハ當該工業ニ關スル工業組合ノ組合員タルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

行政官廳必要ト認ムルトキハ工業小組合ニ對シ當該工業ニ關スル工業組合ニ加入スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキハ當該工業小組合ハ當該工業組合ノ組合員トス

第三十三條ノ七　工業小組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　目的
二　名稱
三　事務所
四　組合員タル資格ニ關スル規定及組合員ノ總數
五　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定
六　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
七　剰餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定
八　準備金ノ額及其ノ積立ノ方法
九　組合員ノ權利義務ニ關スル規定
十　事業及其ノ執行ニ關スル規定
十一　役員ニ關スル規定
十二　會議ニ關スル規定
十三　會計ニ關スル規定
十四　存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第三十三條ノ八　工業小組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間以内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ

一　前條第一號乃至第三號、第六號及第十四號ニ掲ゲタル事項
二　出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額
三　設立認可ノ年月日
四　理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第二號ニ掲ゲタル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第三十三條ノ九　工業小組合ニハ營業收益税ヲ課セズ

第三十三條ノ十　第四條第二項、第九條、第十五條ノ二、第十七條第一項、第十八條、第十九條、第二十一條(但書ヲ除ク)、第二十四條、第二十八條第一項、第二十八條ノ二、第三十四條乃至第三十七條及第三十九條乃至第四十一條、民法第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十條及第六十六條、非訟事件手續法第百三十八條、第百三十八條ノ三、第百四十一條乃至第百五十一條ノ六、第百五十四條乃至第百五十八條、第百六十五條、第百七十五條、第百七十六條及第百七十八條竝ニ産業組合法第五條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十一條、第二十四條、第二十六條乃至第三十四條、第三十四條ノ二第一項、第三十五條、第三十六條、第三十九條乃至第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十八條、第四十八條ノ二、第五十一條乃至第五十七條、第六十條、第六十條ノ二、第六十二條(第一項第三號及第四號ヲ除ク)、第六十三條第一項、第六十五條、第六十九條乃至第七十三條ノ三、第七十四條第一項、第七十四條ノ二第一項、第七十五條、第九十六條、第九十七條及第百四條ノ規定ハ工業小組合ニ付之ヲ

日本標準規格B4判(十一行全)(富井納)

準用ス但シ産業組合法中地方長官又ハ監督官廳トアルハ之ヲ行政官廳トス

第三十八條但書中「民法第四十五條第三項及第四十八條第一項中一週間トアルハ之ヲ二週間トシ」及「主務大臣、」ヲ削ル

第四十條中「第四條第二項（第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）」ヲ「第四條第二項（第三十三條及第三十三條ノ十ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）」ニ改ム

第四十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第八條ノ規定（第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者

二　販賣ノ目的ヲ以テ前號ノ犯罪ニ係ル工産品ナルコトヲ知リテ其ノ交付ヲ受ケタル者

三　第八條ノ四ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ當該工業ヲ營ミ又ハ設備ノ擴張ヲ爲シタル者

前項第一號又ハ第二號ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル工産品ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登錄稅法第十九條第七號、印紙稅法第四條第一項第十一號竝ニ商工組合中央金庫法第一條第一項、第七條第一項、第二十八條第一項第六號及第二十九條第一項第三號中「工業組合聯合會、」ノ下ニ「工業小組合、」ヲ加フ

五

濟

商甲第二號

起案	閣議決定	裁可	施行
昭和十四年二月八日	昭和十四年二月十六日	昭和　年　月　日	昭和十四年二月十一日 指令

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官

外務大臣	内務大臣	大藏大臣
陸軍大臣	海軍大臣	司法大臣
文部大臣	農林大臣	商工大臣
遞信大臣	鐵道大臣	拓務大臣
厚生大臣	近衛樞密院議長	

別紙司法商工拓務三大臣請議

鑛業法中改正法律制定ノ件

右閣議ニ供ス

追テ右司法商工拓務三大臣ノ請議ニ

對スル企畫院ノ上申別紙ノ通

指令案

鑛業法中改正法律制定ノ件請議ノ通

通牒案

昭和十四年二月十六日

内閣書記官長

法制局長官
企畫院總裁）宛（各通）

依命通牒

別紙司法商工拓務三大臣請議鑛業法中改正法律制定ノ件請議ノ通閣議決定相成候

内閣

企畫院上申第一五號

昭和十四年二月七日

企畫院總裁　青木一男

內閣總理大臣　男爵　平沼騏一郎　殿

鑛業法中改正法律案要綱ニ關スル件

別紙商工大臣、司法大臣及拓務大臣請議鑛業法中改正法律案要綱ヲ審查スルニ右ハ鑛業ノ作業ニ起因スル損害ノ賠償ニ關シ規定セントスルモノニシテ現狀ニ鑑ミ妥當ナル方策ト被認候ニ付請議ノ通閣議決定相成可然本院官制第一條第一項第二號ニ依リ此段及上申候

主任　產業部　椙杜書記官

內閣

日本標準規格B5判

主任商工書記官山本茂

閣商第三號

鑛業ノ作業ニ基ク損害ノ賠償ヲ適當ニ規制スルハ喫緊ノ要務ナリト認メテルルニ付別紙要綱ニ依リ鑛業法中改正法律ヲ制定シ以テ鑛業權者ノ賠償責任及其ノ範圍ヲ明確ニシ且此ノ種紛議ノ圓滿ナル解決ヲ圖ルコトト致度右閣議ヲ請フ

昭和十四年二月四日

商工大臣 八田嘉明

商甲二

商工省

商工省

司法大臣　鹽野季彥

拓務大臣　八田嘉明

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

鑛業法中改正法律案要綱

第一　鑛物掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿、坑水廢水ノ放流、捨石鑛滓ノ堆積又ハ鑛煙ノ排出（以下鑛業ノ作業ト總稱ス）ニ因リテ他人ニ損害ヲ與ヘタルトキハ損害發生ノ時ノ鑛業權者、損害發生ノ時鑛業權消滅セルトキハ鑛業權消滅ノ時ノ鑛業權者ハ其ノ損害ヲ賠償スベキモノトスルコト

損害發生ノ後鑛業權者其ノ鑛業權ヲ讓渡シタルトキハ損害發生ノ時ノ鑛業權者及其ノ後ノ鑛業權者ハ連帶シテ前項ノ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フモノトスルコト

第二　損害ガ二人以上ノ鑛業權者ノ鑛業ノ作業ニ因リテ生ジタルトキハ各鑛業權者ハ連帶シテ其ノ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フモノトスルコト損害ガ二人以上ノ鑛業權者ノ鑛業ノ作業ノ中孰レニ因リテ生ジタルカヲ知ルコト能ハザルトキ亦同ジキモノトスルコト

商工省

第三　第一及第二ノ場合ニ於テ共同鑛業權者ノ賠償義務ハ連帶ト
スルコト

第四　石炭鑛區ノ鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ石炭掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿ニ因リテ生ズベキ損害ノ賠償ヲ擔保スル爲其ノ掘採シタル石炭ノ數量ニ應ジ毎年一定ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スベキモノトスルコト

石炭鑛區ノ鑛業權者前項ノ供託ヲ怠リタルトキハ主務大臣ハ鑛業ノ停止ヲ命ズルコトヲ得ルモノトスルコト

第五　石炭掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿ニ因リテ損害ヲ被リタル者ハ其ノ損害賠償請求權ニ關シ第四ノ規定ニ依ル供託物ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有スルモノトスルコト

第六　石炭鑛區ノ鑛業權者其ノ鑛業權ヲ讓渡シタルトキハ第四ノ規定ニ依ル供託物ニ對スル權利ハ讓受人ニ移轉スルモノトスルコト

日本標準規格　B4　小筆納

第七　左ノ場合ニ於テハ石炭鑛區ノ鑛業權者又ハ其ノ鑛業權者タリシ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第四ノ規定ニ依ル供託物ヲ取戻スコトヲ得ルモノトスルコト

一　石炭鑛區ノ鑛業權者石炭掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿ニ因リテ生ジタル損害ヲ賠償シタルトキ

二　石炭鑛區ノ鑛業權消滅後十年ヲ經ルモ石炭掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿ニ因ル損害ノ生ゼザルトキ

第八　損害ノ賠償ハ金錢ヲ以テ之ヲ爲スモノトスルコト但シ賠償金額ヨリモ著シク多額ノ費用ヲ要セズシテ原狀回復ヲ爲スコトヲ得ル損害ニ付テハ被害者ハ原狀回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトスルコト

原狀回復ヲ適當ナリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ裁判所ハ賠償義務者ノ申立ニ依リ金錢賠償ニ代ヘ原狀回復ヲ命ズルコトヲ得ルモノトスルコト

第九　損害ノ發生ニ關シ被害者ニ惡意アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ責任及額ヲ定ムルニ付之ヲ斟酌スルモノトスルコト損害ノ發生ニ關シ天災其ノ他ノ不可抗力ノ競合スルトキ亦同ジキモノトスルコト

第十　當事者ガ損害賠償ノ額ヲ豫定シタル場合ニ於テ其ノ額ガ著シク不當ナルトキハ各當事者ハ之ガ増減ヲ請求スルコトヲ得ルモノトスルコト

第十一　損害賠償ノ請求權ハ被害者ガ損害及賠償義務者ヲ知リタル時ヨリ三年間之ヲ行ハザルトキハ時效ニ因リテ消滅スルモノトスルコト損害發生ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同ジキモノトスルコト

前項ノ期間ハ損害ノ發生ガ進行中ノ場合ニ於テハ其ノ進行ノ止ミタル時ヨリ之ヲ起算スルモノトスルコト

第十二　鑛夫ノ業務上ノ負傷、疾病及死亡ニ關シテハ第一乃至第

十一ノ規定ハ之ヲ適用セザルモノトスルコト
第十三　第一乃至第三及第八乃至第十一ノ規定ハ其ノ施行前ニ為シタル鑛業ノ作業ニ因リテ其ノ施行後ニ生ジタル損害ニモ亦之ヲ適用スルモノトスルコト
第十四　本法施行前ニ生ジタル損害ニシテ被害者ガ其ノ賠償（補償金、手當金、見舞金其ノ他名義ノ如何ヲ問ハズ）ヲ受ケズ又ハ賠償ヲ受ケタルモ其ノ額ガ著シク少額ナリシモノニ付テハ被害者ハ賠償又ハ其ノ増額ヲ請求スルコトヲ得ルモノトスルコト
第一第一項、第二、第三、第八、第九及第十一ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用スルモノトスルコト但シ第十一第一項ノ三年ノ期間ハ被害者ガ本法施行前ニ損害及賠償義務者ヲ知リタルトキハ其ノ施行ノ日ヨリ之ヲ起算スルモノトスルコト
第十五　鑛業法第四十一條及第九十六條中ニ第四第二項ノ命令ニ從ハザル場合ヲ加フルコト

第十六　鑛害ニ關シ爭議ヲ生ジタルトキハ當事者ハ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノトスルコト

第十七　調停ハ司法裁判所ニ於テ之ヲ行フモノトスルコト

一　損害ノ發生地ヲ管轄スル地方裁判所ヲ以テ管轄裁判所トスルコト

二　申立ヲ受ケタル裁判所相當ト認ムルトキハ他ノ地方裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得ルモノトスルコト

第十八　調停ト訴訟手續トノ關係ニ付テハ左ノ如ク之ヲ定ムルコト

一　鑛害ニ關スル爭議ニ付訴訟ガ繫屬スルトキハ受訴裁判所ハ職權ヲ以テ事件ヲ調停ニ付スルコトヲ得ルモノトスルコト

二　調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟ガ繫屬スルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得ルモノトスルコト

日本標準規格 B4 小筆納

第十九　調停手續等ニ付テハ左ノ如ク之ヲ定ムルコト

一　裁判所調停ノ申立ヲ受理シタルトキハ調停委員會ヲ開クコトヲ以テ原則トスルコト

二　調停委員會ハ調停主任一人及調停委員二人以上ヲ以テ之ヲ組織シ調停委員ハ特別ノ知識經驗ヲ有シ公正ナル判斷ヲ爲スニ適スル者ヲ以テ之ニ充ツルコト

三　利害關係人ヲ參加セシムルノ途ヲ拓クコト

四　裁判所又ハ調停委員會必要アリト認ムルトキハ關係官廳其ノ他適當ト認ムル者ニ對シ意見ヲ求ムルコトヲ得ルモノトスルコト

五　關係官廳ハ裁判所又ハ調停委員會ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得ルモノトスルコト

六　裁判所又ハ調停委員會ハ關係官廳其ノ他適當ト認ムル者ニ事實ノ調査ノ囑託ヲ爲スコトヲ得ルモノトスルコト

商工省

七　調停申立ニ付テハ手數料ヲ徴スルモノトスルコト

八　其ノ他調停ノ手續及效力ニ關シテハ小作調停法ニ準ズル規定ヲ設クルコト

第二十　調停委員會ハ當事者ノ合意アル場合ニ於テハ爭議ニ付民事訴訟法ニ依ル仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得ルモノトスルコト

商工省

日本標準規格 B4 小筆納

六

済

大甲第三二號	
起案	昭和十四年二月九日
閣議決定	昭和十四年二月十八日
裁可	昭和　年　月　日
施行	昭和十四年二月十八日 指令

内閣總理大臣（花押）

内閣書記官長（印）

内閣書記官（印）

外務大臣（花押）	内務大臣（花押）	大藏大臣（花押）
陸軍大臣（花押）	海軍大臣（花押）	司法大臣（花押）
文部大臣（花押）	農林大臣（花押）	商工大臣（花押）
遞信大臣（花押）	鐵道大臣（花押）	拓務大臣（花押）
厚生大臣（花押）	近衛國務大臣	

別紙大藏商工兩大臣請議

産金法中改正ニ關スル件

IMT 650

右閣議ニ供ス
追テ右請議ニ對スル企畫院ノ上
申別紙ノ通

指令案

産金法中改正ニ關スル件請議ノ通

通牒案

昭和十四年二月二十八日
内閣書記官長

法制局長官
企畫院總裁 宛（各通）

依命通牒

別紙大藏商工兩大臣請議産金法中改正ニ關スル件請議ノ通閣議決定相成候

内閣

主任 財務部 中島書記官

企畫院上申第二二號

昭和十四年二月九日

企畫院總裁 青木一男

内閣總理大臣 男爵 平沼騏一郎 殿

産金法中改正法律案要綱ニ關スル件

別紙大藏大臣及商工大臣請議産金法中改正法律案要綱ヲ審査スルニ右ハ適當ト被認候ニ付請議ノ通閣議決定相成可然本院官制第一條第一項第二號ニ依リ此段及上申候

内閣

日本標準規格B5列

IMT 650

企畫院 佐藤

藏秘第二二號

我國國際收支ノ現狀ニ顧ミ民間所在金ノ集中ヲ圖ルノ要緊切ナルモノアリト認メラルルヲ以テ左記要綱ニ依リ產金法中改正ヲ行フコトト致シ度

右閣議ヲ請フ

昭和十四年二月八日

大藏大臣　石渡莊太郎

商工大臣　八田嘉明

內閣總理大臣男爵　平沼騏一郎　殿

大甲　三二

大藏省

主任者　理財局金融課長　迫水　大藏書記官

規格 B.5 (12.8. 小川納)

IMT 650

6

産金法中改正ニ關スル件

一、政府ハ金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ所有スル者ニ對シ之ガ處分ニ關シ禁止若ハ制限ヲ爲シ又ハ之ヲ政府若ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ズルコトヲ得ルコト

二、政府ハ金貨幣ヲ所有スル者ニ對シ之ガ處分ニ關シ禁止若ハ制限ヲ爲シ又ハ之ヲ鑄潰シ依ッテ得タル金地金ヲ政府若ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ズルコトヲ得ルコト

三、第一項又ハ前項ニ依リ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ノ賣却價額ハ金地金ニ在リテハ其ノ物ノ中ニ含マルル金ノ純量ニ付政府ノ金地金買上價格ニ依リ算出シタル金額トシ金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ニ在リテハ金委員會ノ定ムル所ニ依ルコト

四、政府ガ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ禁止、制限又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ金委員會ノ議ヲ經ルコトヲ要スルコト

大藏省

規格 B.5 (12. 8. 小川納)
IMT 650

五、第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル禁止、制限又ハ命令ニ違反シタル者ニ對シテハ適當ナル罰則ヲ設クルコト

六、外地ニ於テモ大體右ト同樣ノ規定ヲ設クルコト

大藏省

規格 B.5 (12.8. 小川納)

IMT 650

産金法改正案ニ關シ企畫院トシテハ左記了解ノ下ニ賛成ス（大藏省ハ其ノ他賛成ズミ）

一　今回ノ産金法改正ハ恒久的措置ヲ内容トスルコトヲ前提トスルコト

二　總動員法ノ發動ハ議會開會中ト雖モ必要ニ應シ行ヒ得ルモノナルコト

三　金地金、金合金、金製品等ハ必要ニ應シ總動員物資ニ指定シ得ルモノナルコト

内閣

B5　タイプライター用紙

IMT 650　9

七

濟

商甲第七號

起案 昭和十四年二月十八日
閣議決定 昭和十四年三月四日
裁可 昭和　年　月　日
施行 昭和十四年三月四日 指令

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官

外務大臣	内務大臣	大藏大臣
陸軍大臣	海軍大臣	司法大臣
文部大臣	農林大臣	商工大臣
遞信大臣	鐵道大臣	拓務大臣
厚生大臣	近衛樞密院議長	

別紙内務大藏陸軍海軍商工拓務六大臣請議

輕金屬製造事業法制定ノ件

右閣議ニ供ス

追テ右内務大藏陸軍海軍商工拓務六大臣ノ請議ニ對スル企畫院ノ上申別紙ノ通

指令案

輕金屬製造事業法制定ノ件請議ノ通

通牒案

昭和十四年三月四日

内閣書記官長

IMT 650

法制局長官
企畫院總裁 宛（各通）

依命通牒

別紙内務大藏陸軍海軍商工拓務六大臣請議輕金屬製造事業法制定ノ件請議ノ通閣議決定相成候

内閣

企畫院上申第二六號

昭和十四年二月十八日

企畫院總裁　青木一男

内閣總理大臣　男爵　平沼騏一郎　殿

主任　産業部　相杜書記官

輕金屬製造事業法案要綱ニ關スル件

別紙商工、内務、大藏、陸軍、海軍及拓務各大臣請議輕金屬製造事業法案要綱ヲ審査スルニ右ハ國防ノ整備及産業ノ發達ヲ期スル爲本邦ニ於ケル輕金屬製造事業ノ確立ヲ圖ラントスルモノニシテ現下ノ情勢ニ鑑ミ緊要ナル方策ト被認候ニ付請議ノ通閣議決定相成可然本院官制第一條第一項第二號ニ依リ此段及上申候

内閣

日本標準規格B5列

IMT 650

閣商第 五 號

主任 佐枝

國防ノ整備及産業ノ發達ヲ期スル爲輕金屬製造事業法別紙要綱ニ依リ制定致度至急閣議ヲ請フ

昭和十四年二月十六日

商工大臣 八田嘉明

内務大臣侯爵木戸幸一

商甲 七

商工省

大藏大臣　石渡莊太郎

陸軍大臣　板垣征四郎

海軍大臣　米内光政

拓務大臣　八田嘉明

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

商工省

輕金屬製造事業法案要綱

(一) 目的

國防ノ整備及産業ノ發達ヲ期スル爲本邦ニ於ケル輕金屬製造事業ノ確立ヲ圖ルコト

(二) 適用範圍

本法ハアルミニウム、アルミナ又ハマグネシウムノ製造事業ニ適用スルコト

(三) 事業經營及設備ノ增設、變更ニ對スル統制

イ、一定規模以上ノ輕金屬製造事業ヲ營マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クルヲ要スルモノトスルコト

商工省

ロ、イ、ノ許可ヲ受ケタル輕金屬製造會社ハ政府ノ指定スル期間内ニ事業ヲ開始スルヲ要スルモノトスルコト

ハ、輕金屬製造會社ハ設備ノ增設、變更ニ關シ政府ノ許可ヲ受クルヲ要スルモノトスルコト

ニ、イ、ノ許可ヲ受クルコトヲ得ルモノハ株式ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法人ニ屬スル帝國法令ニ依ル株式會社タルヲ要スルモノトスルコト

(四) 輕金屬製造會社ニ對スル特典

イ、免税

1、輕金屬製造會社政府ノ認可ヲ受ケ本法施行後五年間ニ於

テ政府ノ指定スル期間内ニ一定規模以上ノ設備ヲ新設又ハ増設シタルトキハ設備完成ノ年度及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ新設又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ム輕金屬製造事業ニ付所得税、營業收益税及地方税ヲ免除スルコト

2、輕金屬製造會社其ノ事業ノ爲必要ナル器具又ハ機械ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行後五年間輸入税ヲ免除スルコト

ロ、土地收用法ノ適用

輕金屬製造會社ノ營ム輕金屬製造事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用シ又ハ使用シ得ル事業トシテ同法ヲ適用スルコト

商工省

IMT 650

ハ、資金調達ニ關スル特典

1、輕金屬製造會社ハ其ノ事業設備擴張費用ニ充ツル爲株金全額拂込前ト雖モ政府ノ認可ヲ受ケ增資ヲ行ヒ得ルモノトスルコト

2、輕金屬製造會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業設備擴張費用ニ充ツル爲商法ノ規定ノ制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルヲ得ルモノトスルコト

(五) 輕金屬製造會社ニ對スル監督

イ、輕金屬製造會社ノ事業ノ讓渡、廢止又ハ休止ハ政府ノ許可ヲ要スルモノトスルコト

ロ、輕金屬製造會社ノ合併、解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ效力ヲ生ゼザルモノトスルコト

ハ、輕金屬製造會社ハ毎營業年度豫メ事業計畫ヲ政府ニ屆出ヅルヲ要スルモノトスルコト

併シテ政府必要アリト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命ズルヲ得ルモノトスルコト

ニ、政府ハ輕金屬製造會社ヲシテ業務及財產ノ狀況ニ關シテ報告ヲ爲サシメ、輕金屬製造會社ニ對シテ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲シ、輕金屬製造會社ノ事務所、工場、倉庫等ニ臨檢スルヲ得ルモノトスルコト

商工省

IMT 650

(六) 輕金屬製造會社ニ對スル公益命令

イ、政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ輕金屬製造會社ニ對シアルミニウム、アルミナ又ハマグネシウムノ製造若ハ販賣ニ關シアルミニウム、アルミナ又ハマグネシウムノ需給ノ圓滑又ハ價格ノ公正ヲ圖ル爲必要ナル命令ヲ爲スヲ得ルモノトスルコト

ロ、政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ輕金屬製造會社ニ對シ其ノ設備ノ擴張若ハ改良又ハ製造方法ノ變更ヲ命ズルヲ得ルモノトスルコト

ハ、政府ハ軍事上必要アリト認ムルトキハ輕金屬製造會社ニ對

日本標準規格 B4 小筆納

IMT 650

シ**アルミニウム**、**アルミナ**又ハ**マグネシウム**ノ原料又ハ材料ノ貯藏又ハ**アルミニウム**、**アルミナ**又ハ**マグネシウム**ノ製造ニ關スル特殊事項ノ研究ヲ命ズルヲ得ルモノトスルコト

ニ、**ロ**、**ハ**、**ニ**、ノ命令ニ因リ損失ヲ生ジタルトキハ政府之ヲ補償スルコト

(七) 輕金屬製造ニ對スル助成及保護

政府ハ政府ノ指定スル原料又ハ製造方法ニ依ル**アルミニウム**、**アルミナ**又ハ**マグネシウム**ノ製造ニ關スル研究又ハ試驗ヲ爲ス者ニ對シ豫算ノ範圍內ニ於テ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得ルモノトスルコト

商工省

IMT 650

(八)アルミニウム又ハマグネシウムノ共同販賣ニ關スル特殊會社

イ、政府ノ事業命令

政府アルミニウム、アルミナ又ハマグネシウムノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ノ適當ト認ムル者ニ對シ左ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ行フベキコトヲ命ズルヲ得ルモノトスルコト

一、アルミニウム又ハマグネシウムノ買入、販賣、輸出、輸入、移出及移入

二、アルミニウム、アルミナ又ハマグネシウムノ原料及材料ノ買入、販賣、輸出、輸入、移出及移入

日本標準規格 B4 小筆納

IMT 650

三、其ノ他アルミニウム、アルミナ又ハマグネシウムノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖ル爲必要ナル事業

右ノ事業命令ヲ受ケタル會社（受命會社）命ゼラレタル以外ノ事業ヲ營マントスルトキハ政府ノ許可ヲ受クルヲ要スルモノトスルコト

ロ、受命會社ノ組織

受命會社ハ帝國法人タル株式會社ニシテ其ノ株式ヲ記名式トシ、政府、公共團體、帝國臣民及帝國法人ノミガ之ヲ所有スルモノタルヲ要スルモノトスルコト

ハ、受命會社ニ對スル特典

商工省

IMT 650

1、受命會社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルヲ得ルモノトスルコト

2、政府必要アリト認ムルトキハ輕金屬製造會社又ハアルミニウム、マグネシウムノ輸入業者等ニ對シ其ノ製造又ハ輸入ニ係ルアルミニウム又ハマグネシウムヲ受命會社ニ對シ賣渡スベキコトヲ命ズルヲ得ルモノトスルコト

ニ、受命會社ノ監督

1、受命會社ハ政府ノ認可ヲ受ケタル價格ニ依ルニ非ザレバアルミニウム又ハマグネシウムノ買入、販賣、輸出、輸入、移出又ハ移入ヲ行フヲ得ザルモノトスルコト

商工省

IMT 650

2、受命會社ハ其ノ受命事業ニ付業務規程ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クルヲ要スルモノトスルコト

併シテ政府必要アリト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命ズルヲ得ルモノトスルコト

3、受命會社ハ毎營業年度其ノ受命事業ニ付事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クルヲ要スルモノトスルコト

併シテ政府必要アリト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命ズルヲ得ルモノトスルコト

4、受命會社ノ取締役及監査役ノ選任及解任、定款ノ變更、利益金ノ處分、社債ノ募集、合併竝ニ解散ノ決議ハ政府

商工省

ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ効力ヲ生ゼザルモノトスルコト

5、受命會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ許可ヲ受クルヲ要スルモノトスルコト

6、政府ハ受命會社ヲシテ業務及財産ノ狀況ニ關シテ報告ヲ爲サシメ、受命會社ニ對シテ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲シ、受命會社ノ事務所、營業所等ニ臨檢スルヲ得ルモノトスルコト

ホ、受命會社ニ對スル公益命令

政府軍事上其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ受命會社ニ

IMT 650

對シ販賣先及販賣數量ノ指定其ノ他受命事業ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルヲ得ルモノトスルコト

(九) 輕金屬製造事業委員會

本法ノ運用上重要ナル事項ニ付テハ貴、衆兩院議員、關係官廳高等官及輕金屬ニ關シ學識經驗アル者ヨリ成ル輕金屬製造事業委員會ノ議ヲ經ルヲ要スルモノトスルコト

商工省

IMT 650

商甲第一三號

起案 昭和十四年三月八日
閣議決定 昭和十四年三月八日
裁可 昭和 年 月 日
施行 昭和十四年三月八日 指令

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官

外務大臣	内務大臣	大藏大臣
陸軍大臣	海軍大臣	司法大臣
文部大臣	農林大臣	商工大臣
遞信大臣	鐵道大臣	拓務大臣
厚生大臣		

別紙大藏商工兩大臣請議
帝國鑛業開發株式會社法制定ノ件

右閣議ニ供ス

追テ右請議ニ對スル企畫院ノ上申

別紙ノ通

指令案

帝國鑛業開發株式會社法制定ノ件

請議ノ通

通牒案

通

昭和十四年三月八日

内閣書記官長

法制局長官
企畫院總裁 宛（各通）

依命通牒

別紙大藏商工兩大臣請議帝國鑛業開發株式會社法制定ノ件請議ノ通閣議決定相成候

内閣

主任 産業部 椙杜書記官

企畫院上申第三八號

昭和十四年三月七日

企畫院總裁 青木一男

內閣總理大臣 男爵 平沼騏一郎 殿

帝國鑛業開發株式會社法案要綱ニ關スル件

別紙商工大臣及大藏大臣請議帝國鑛業開發株式會社法案要綱ヲ審査スルニ右ハ鑛物資源ノ開發及鑛物增產ノ刻下ニ於ケル重要性ニ鑑ミ新ニ增產助成ヲ目的トスル特殊ノ機關ヲ設立シ從前ノ諸施設ト相俟ツテ增產ノ達成ヲ期セントスルモノニシテ生產力擴充計畫遂行上緊要ナル方策ト被認候ニ付請議ノ通閣議決定相成可然本院官制第一條第一項第二號ニ依リ此段及上申候

內閣

內閣官房總務課 14.3.18 庶務

主任山本鑛政課長

閣商第一〇號

重要鑛物ノ資源ノ開發ヲ促進シ其ノ增産ヲ圖ル爲別紙要綱ニ依リ帝國鑛業開發株式會社法ヲ制定スルコトト致度

右閣議ヲ請フ

昭和十四年三月六日

商工大臣 八田嘉明

大藏大臣 石渡荘太郎

商甲一一三

14.3.6